

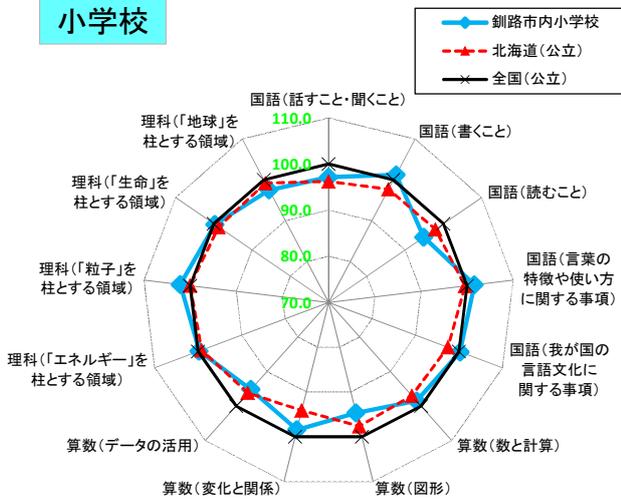
■ 釧路市内の状況及び学力向上策 (小学校数:26校、児童数:1011人) (中学校数:15校、生徒数:1073人)

【教科全体の状況】

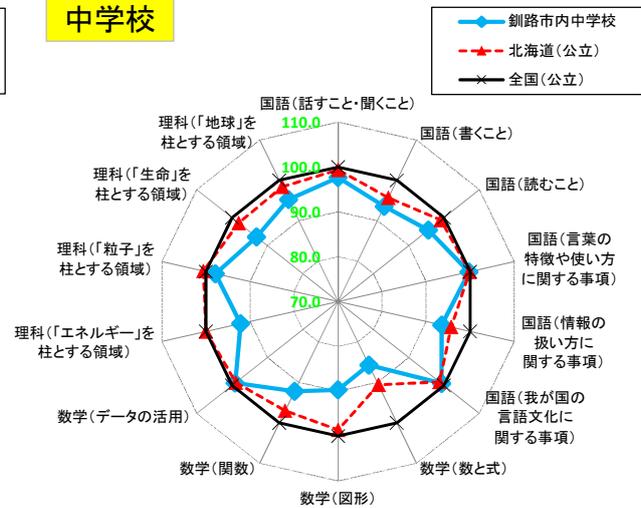
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	68
算数・数学	62	47
理科	64	47

小学校

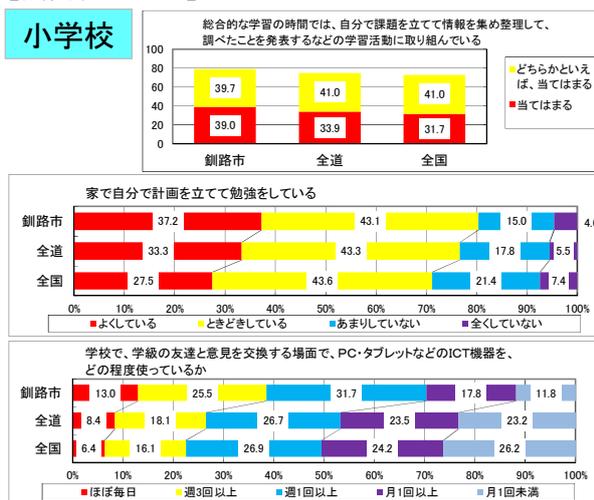


中学校

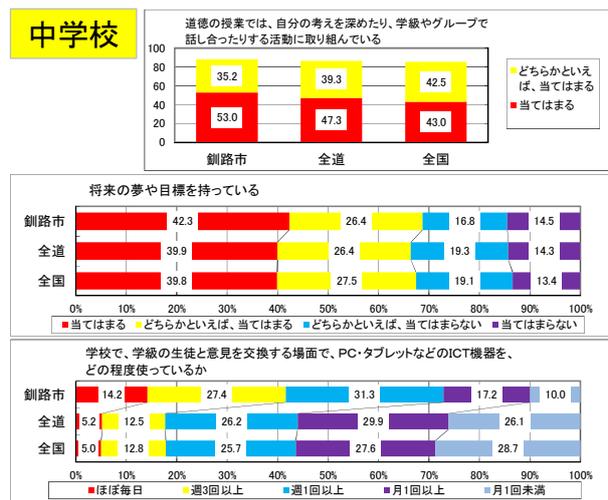


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、授業改善に係る研修会等を継続的に実施してきたことにより、各教科における授業改善が図られ、国語の「書くこと」等の領域で全国を上回るとともに、総合的な学習の時間においても、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動が積極的に行われたと考えられる。

家庭学習の手引き等を活用して、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたり、家庭学習の啓発に係る取組を推進したりしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

一昨年度から1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施したり、実践事例等を定期的に周知したりしたことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。

中学校

市全体で、授業改善に係る研修会等を継続的に実施してきたことにより、各教科における授業改善が図られ、国語の「知識及び技能」に関する領域等で全国とほぼ同様になるとともに、道徳の授業においても、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動が積極的に行われたと考えられる。

全ての中学校において、ICTを活用したキャリア教育に係る講話や出前授業を実施するなど、キャリア教育を推進したことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

一昨年度から1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施したり、実践事例等を定期的に周知したりしたことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。

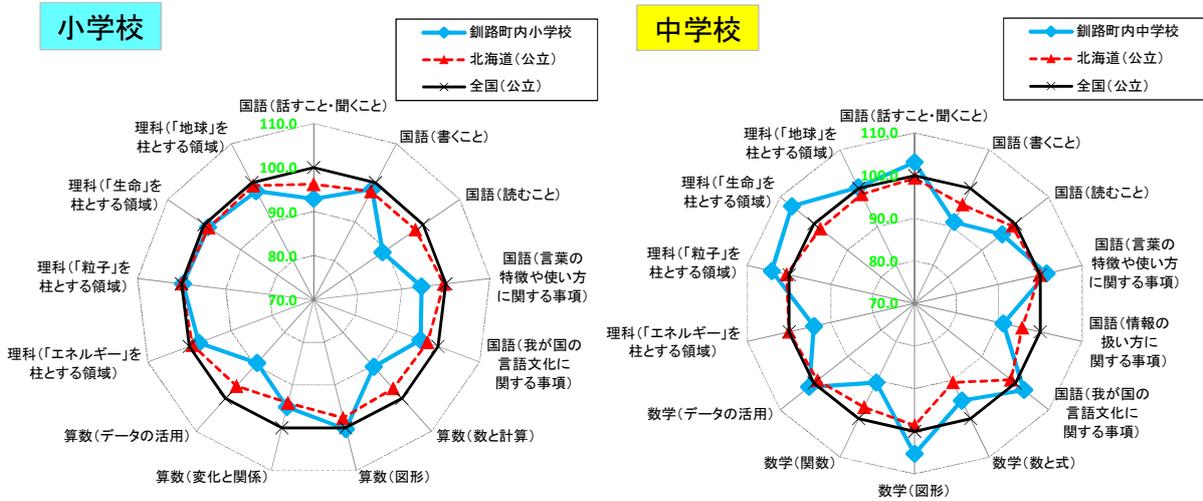
【釧路市の学力向上策】

- ◎ 釧路市標準学力検査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立(調査結果を踏まえた学力向上プランに係る協議及び見直し)
- ◎ 教員の資質・能力の向上に係る研修会等の実施(学力向上セミナー、釧路教育研究センター研修講座、初任段階教員の授業力向上研修等)
- ◎ 授業力向上事業の実施(授業マスターの認定と授業マスターによる授業公開、授業動画交流サイトの開設、学力向上推進委員会の設置、外国語教育アドバイザーによる巡回指導等)
- ◎ 市教委独自の一次訪問の実施(全ての教員の授業参観と指導)

■釧路町内の状況及び学力向上策（小学校数：5校、児童数：130人）（中学校数：4校、生徒数：125人）

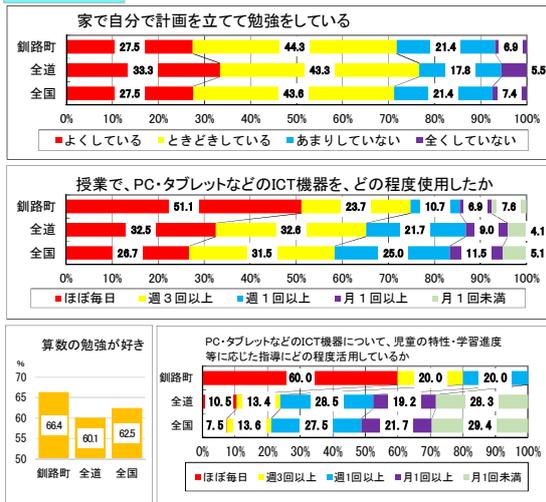
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

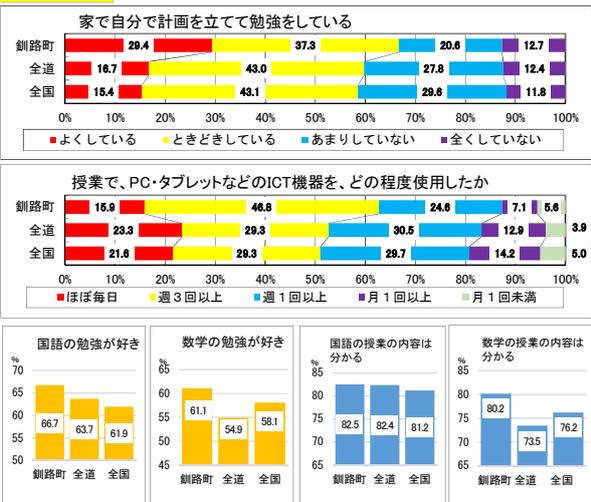


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習について具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国と同様になったと考えられる。

1人1台端末の効果的な活用を図るために町教委主催の研修会を行い、各校で積極的に端末を活用した授業改善を図り、児童の特性や学習進度等に応じた指導に活用したことにより、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の「図形」の領域において、全国を上回り、算数の「変化と関係」の領域において、全道を上回ったと考えられる。

中学校

「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習について具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

1人1台端末の効果的な活用を図るために町教委主催の研修会を行い、各校で積極的に端末を活用した授業改善を図ったことにより、国語・数学の勉強が好きで、国語・数学の授業の内容は分かると答えた生徒の割合が全国を上回り、国語・数学の複数の領域・事項において、全国を上回ったと考えられる。

【釧路町の学力向上策】

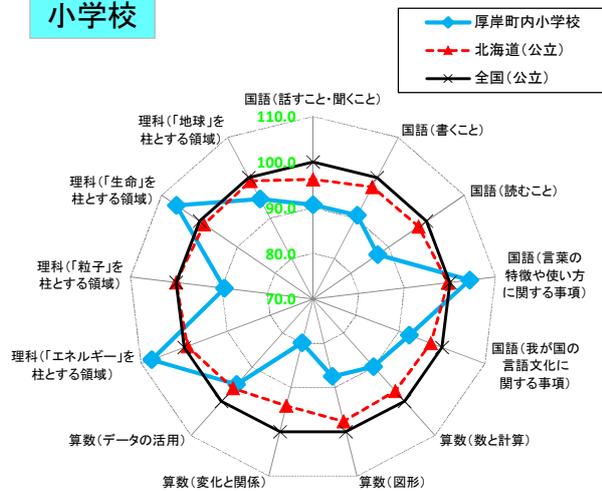
- ◎ 小中連携の強化に向けた合同研修会の場として「地域連携部会」と「教務担当者交流会」の実施(年間各3回ずつ)
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を図るための町教委主催の研修会(年間3回)と町研ICT特別委員会(年間5回)の実施
- ◎ 「学力・学習状況改善プラン」(年間3回)による、検証改善サイクルに基づく各校の取組
- ◎ 「家庭学習の手引き」の配付、「生活リズムチェックシート」(年間2回)及び「メディアコントロール・プロジェクト」による望ましい学習・生活習慣の定着に向けた取組

■厚岸町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:50人）（中学校数:3校、生徒数:68人）

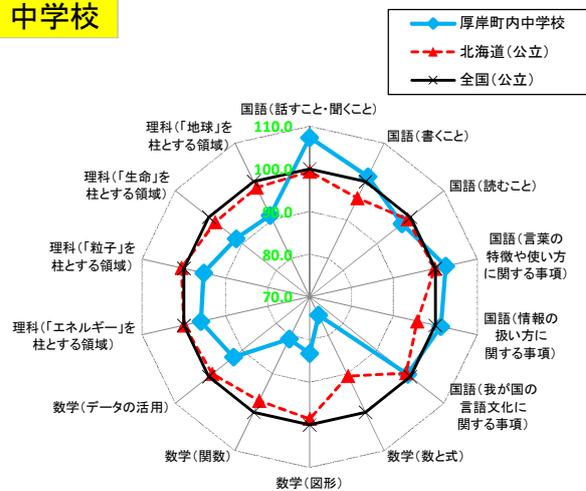
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

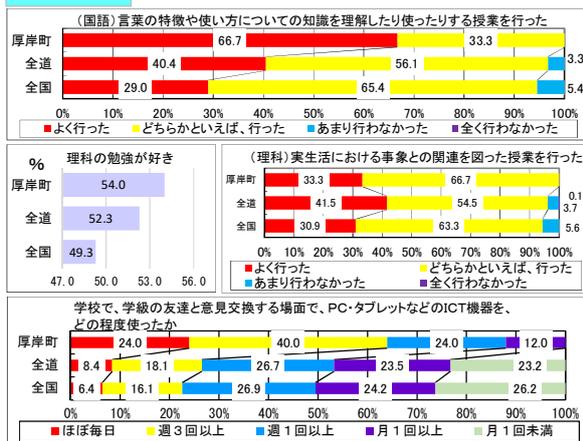


中学校

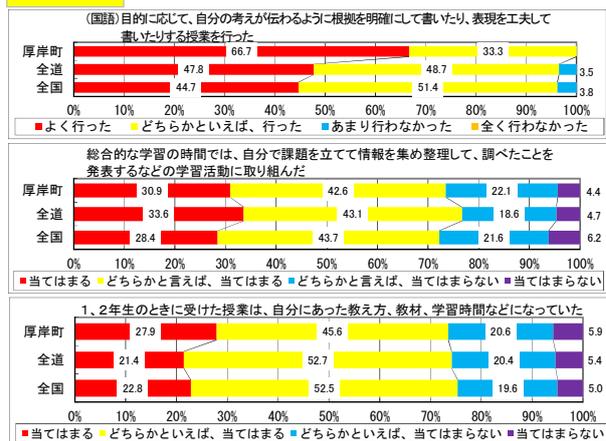


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりするなど、言語活動の充実に向けた授業改善に取り組んだことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、全国を上回ったと考えられる。

理科の授業では、実生活における事象との関連を図った探究の過程の充実に向けた授業改善に取り組んだことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が高くなり、複数の領域で全国を上回ったと考えられる。

1人1台端末を効果的に活用した授業改善を図る研修会を実施したことにより、学校で、学級の友達と意見交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使ったと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりするなど、言語活動の充実に向けた授業改善に取り組んだことにより、国語の複数の領域・事項において、全国を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、探究的な学習の過程を意識した指導に取り組んだことにより、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

習熟度別少人数指導やチーム・ティーチングなど個に応じた指導の充実に向けた取組を推進したことにより、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【厚岸町の学力向上策】

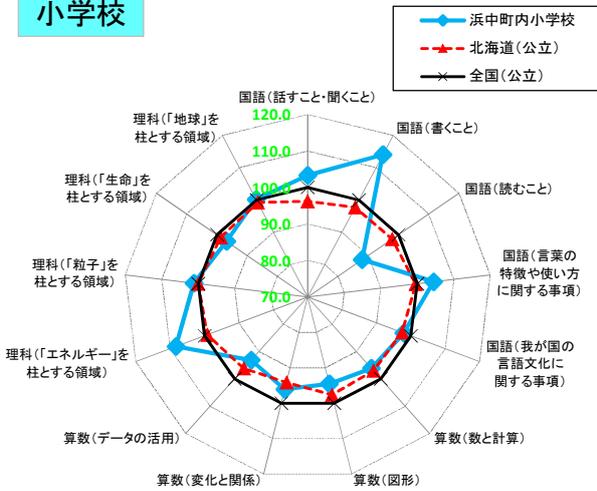
- ◎ 習熟度別少人数指導やチーム・ティーチング及びICTを活用した指導など個に応じた指導の推進
- ◎ 保育所・小学校・中学校・高等学校職員による合同研修会の実施や早期の中学校体験、乗り入れ授業の実施
- ◎ 家庭と連携した児童生徒の生活習慣の改善及び地域と協働した教育活動の実施
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善を図る研修会の実施

■ 浜中町内の状況及び学力向上策 (小学校数:4校、児童数:38人) (中学校数:4校、生徒数:34人)

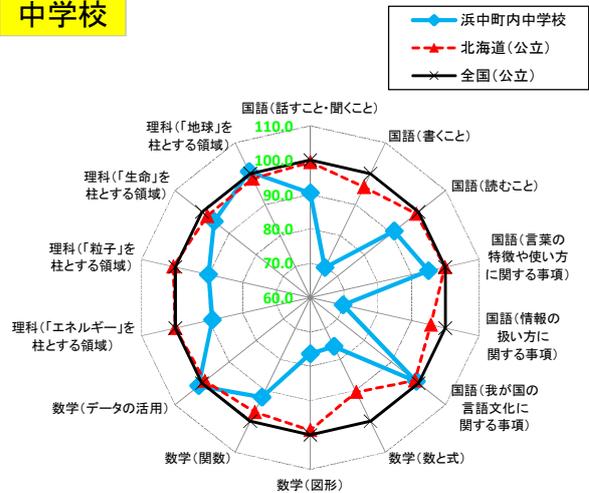
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

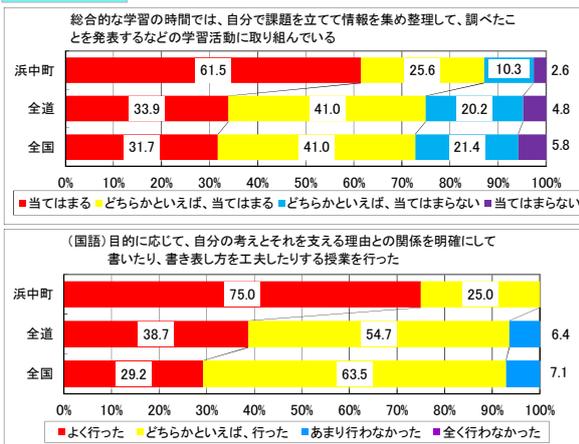


中学校

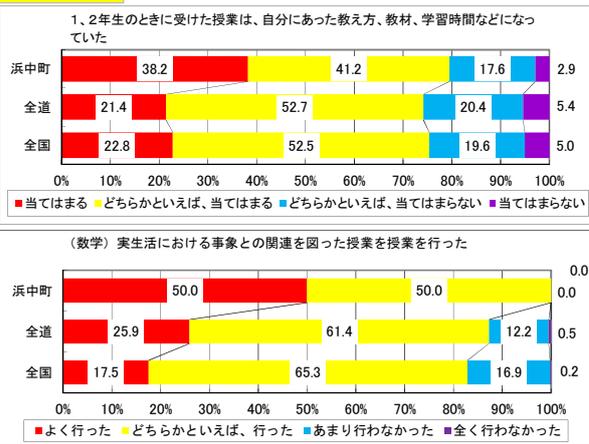


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

総合的な学習の時間において、自然体験学習等のふるさと学習を推進していくとともに、教科等横断的な視点でカリキュラムを作成し、実践したことにより、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語科の授業を中心に、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域において、全国を上回ったと考えられる。

児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習過程について理解を深める校内研修を推進したことにより、表現する力が高まり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、全国を上回ったと考えられる。

中学校

町の「学力向上推進計画」に少人数指導、チーム・ティーチング等の取組を位置付け、計画的に推進したことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

数学科において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の「データの活用」の領域において、全国を上回ったと考えられる。

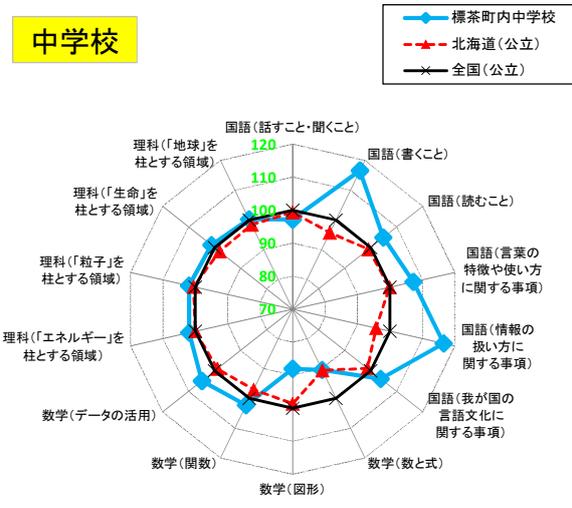
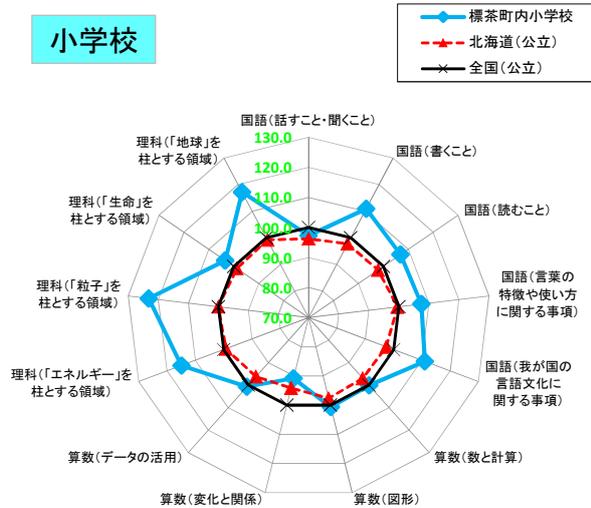
【浜中町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査及び町独自の学力調査を踏まえた「学力向上推進計画」の組織的な運用と校種間での交流
- ◎ 湿原センターやNPO法人を活用した自然体験学習の推進及び各種専門分野における出前授業の活用
- ◎ 教員の資質能力の向上研修会の実施及び支援(ミドルリーダー研修会、ICT特別委員会、郷土読本特別委員会、浜中町初任者研修)

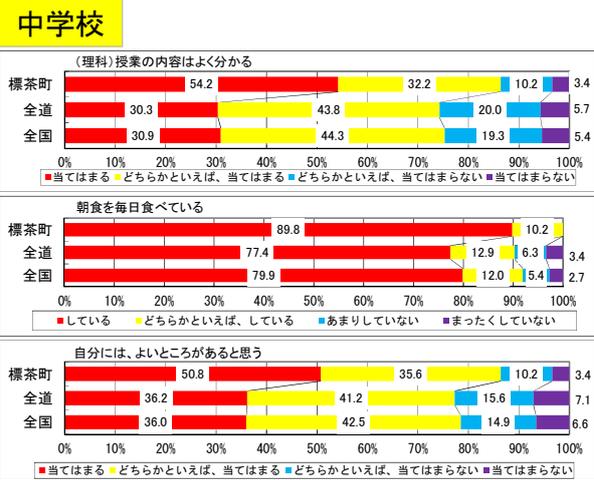
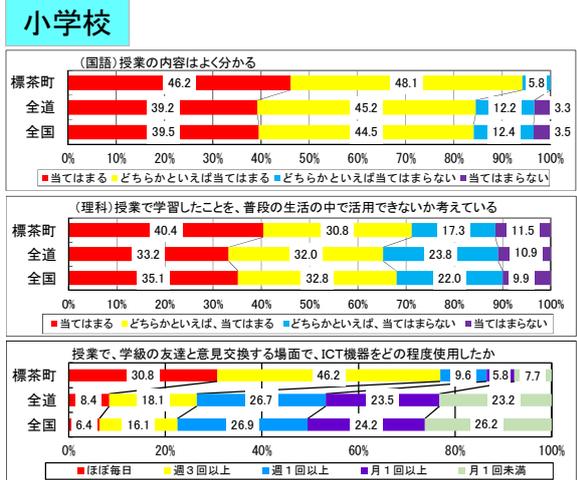
■ 標茶町内の状況及び学力向上策 (小学校数:6校、児童数:52人) (中学校数:4校、生徒数:59人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

標茶町教育研究所の国語部会において、国語科の授業改善に関わる研修会を定期的開催し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が全国を上回り、国語の複数の領域・事項において、全国を上回ったと考えられる。

理科の授業では、実生活における事象との関連を適切に図り、児童の主体的な学びを促す授業改善に取り組んだことにより、理科のすべての領域において、全国を上回ったと考えられる。

教師のICT活用指導力向上を図る研修会を行ったことにより、授業で、学級の友達と意見交換する場面で、ICT機器をほぼ毎日使用していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

標茶町教育研究所の理科部会において、理科の授業改善に関わる研修会を定期的開催し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、理科の授業の内容はよく分かれると回答した生徒の割合が全国を上回り、理科のすべての領域において、全国を上回ったと考えられる。

学力向上の基盤として生徒の望ましい生活習慣を確立するため、家庭との連携の重要性を町の学力向上プランで示したことにより、学校と家庭が目的を共有した取組につながり、朝食を毎日食べていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ適切に評価する取組を行ったことにより、自分にはよいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

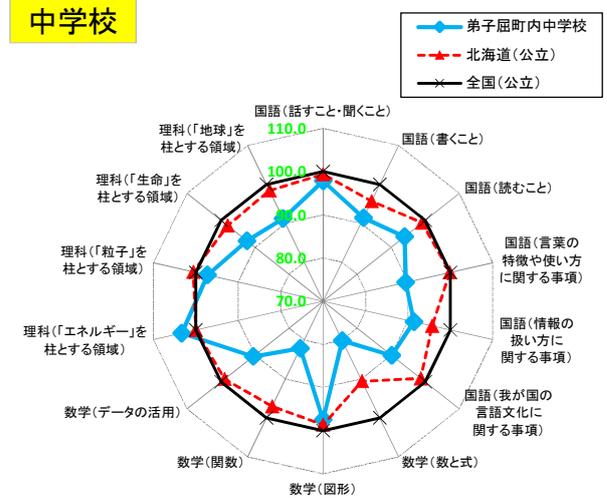
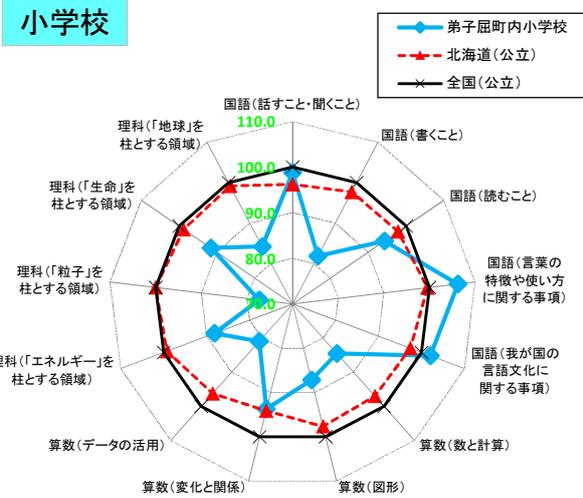
【標茶町の学力向上策】

- ◎ 小学校と中学校の円滑な接続を図り地域の教育力の向上を図るための小中連携事業の実施(年4回)
- ◎ 教師のICT活用指導力向上を図る標茶町教育研究所ICT特別委員会の実施(年5回)
- ◎ 標茶町学力サポートプラン(CRT標準学力調査・i-check)の実施

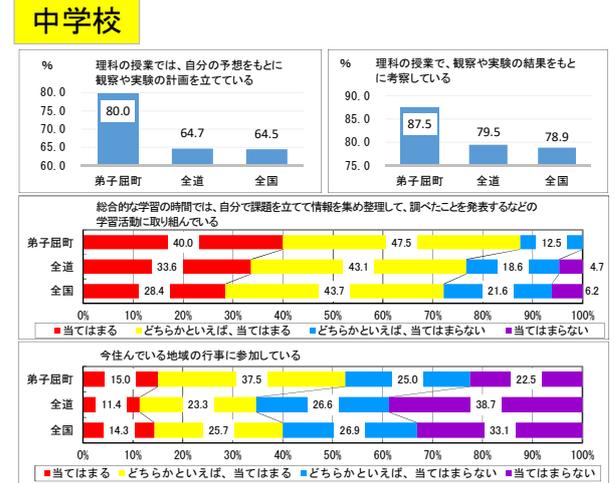
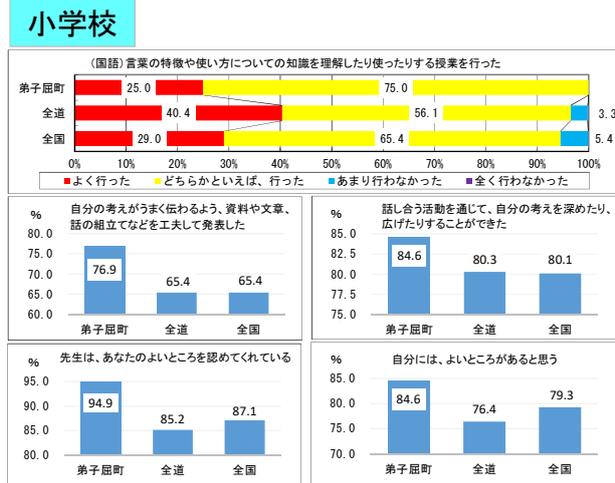
■ 弟子屈町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：39人）（中学校数：2校、生徒数：40人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を町内全校で行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において、全国を上回ったと考えられる。

日常の授業において、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する場面、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする場面を効果的に設定したことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価し、児童の自己肯定感を高める取組を継続して行ってきたことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

理科の授業において、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる場面、観察や実験の結果をもとに考察する場面を意図的に設定し、自然の事物・現象を量的・関係的な視点で捉え、科学的に探究する方法を用いて考えさせたことにより、理科の「『エネルギー』を柱とする領域」において、全国を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、地域を学びのフィールドとし、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を積極的に展開したことにより、地域に対する愛着や誇りが生まれ、地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

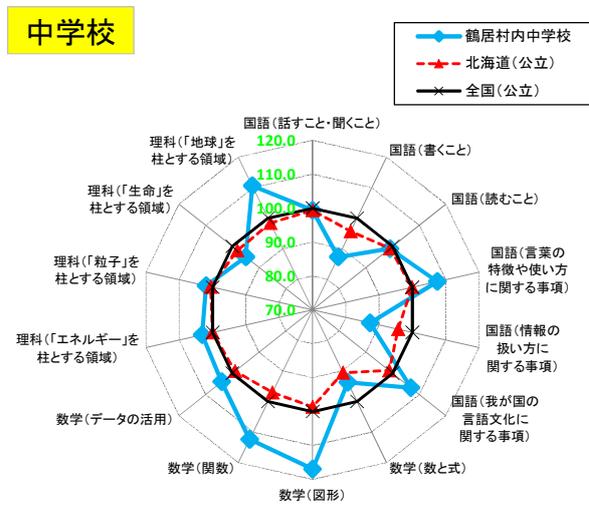
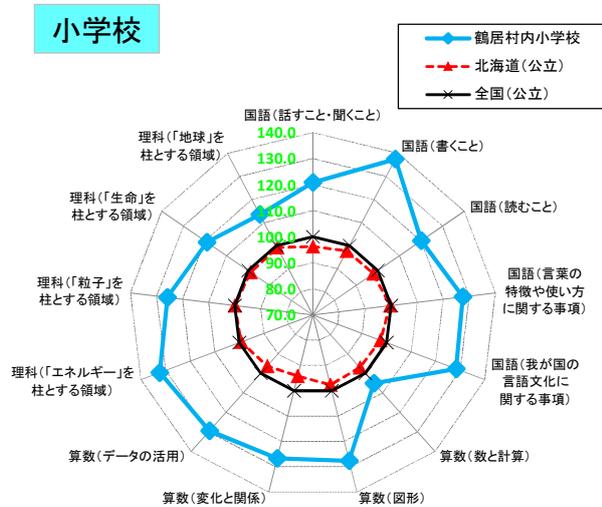
【弟子屈町の学力向上策】

- ◎ 各種調査結果を活かした学習指導の工夫改善等、町や各学校の学力向上プランの着実な推進による学力向上サイクルの確立
- ◎ 学校、家庭における、各種調査結果及びメディア利用に係る課題の共有による生活習慣の改善及び学習習慣の確立
- ◎ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る校内研修の推進による教職員の資質・能力の向上

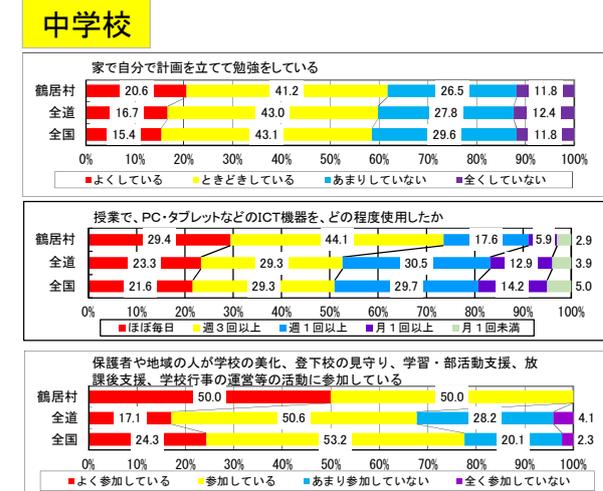
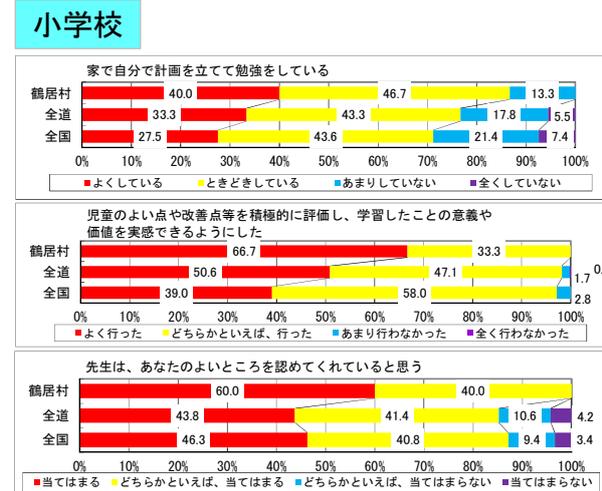
■鶴居村内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:15人）（中学校数:2校、生徒数:32人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導を行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、すべての領域・事項で、全国を上回ったと考えられる。

児童のよい点を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、教諭への信頼感が高まるとともに、更なる学習意欲の向上に繋がり、すべての領域・事項で、全国を上回ったと考えられる。

中学校

家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導を行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、多くの領域・事項で、全国を上回ったと考えられる。

学校において、生徒一人一人に配備されたタブレットなどのICT機器を授業で積極的に活用したことにより、授業でICT機器をほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

日頃から学校が、地域との連携を重視して取り組んだことにより、「地域の大人が力を合わせて、子どもたちを共に育てる」という理念が浸透し、保護者や地域の人が学校行事の運営等の活動に参加していると回答した学校の割合が全国を上回ったと考えられる。

【鶴居村の学力向上策】

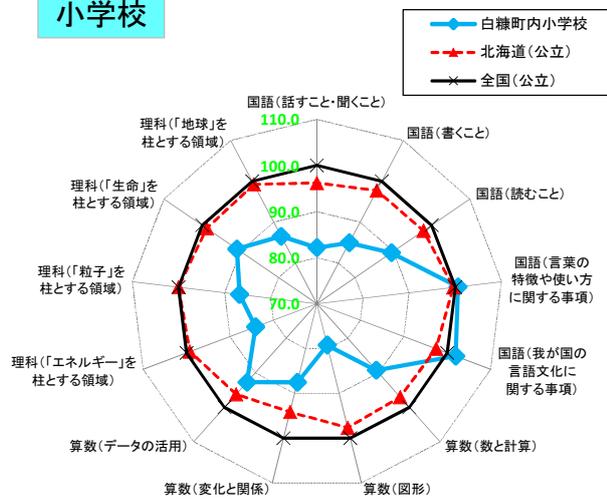
- ◎ 各学校の検証改善サイクルの改善及び教育委員会と学校間との連携を密にした体制による学力向上システムの確立
- ◎ 「授業スタイルの基本型」や「学習規律」の村内全校・全教科における共通理解・実践の促進
- ◎ 学校の実態や状況に合わせた家庭と連携した学習環境の充実
- ◎ 児童生徒の個々に応じた学習支援や1人1台端末の日常的な活用による授業改善の促進

■白糠町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:34人）（中学校数:3校、生徒数:31人）

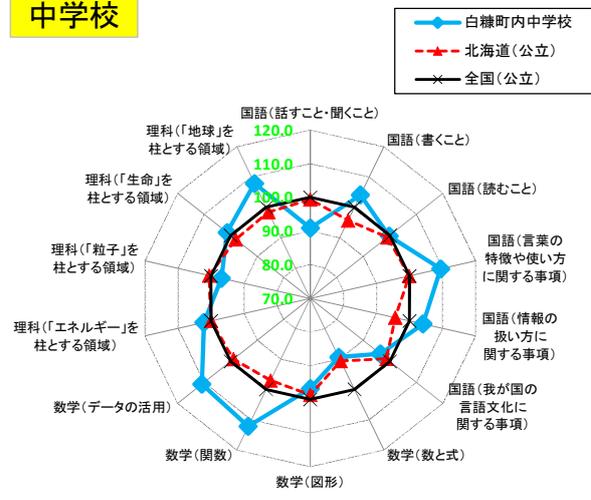
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

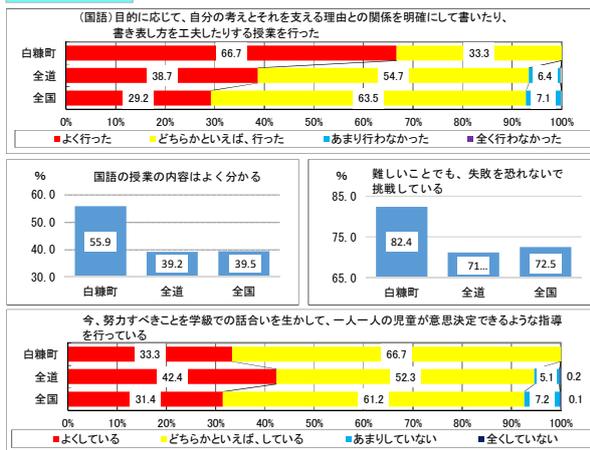


中学校

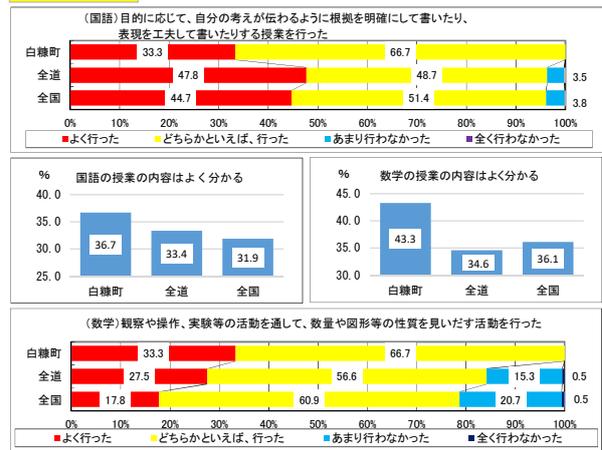


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国を上回ったと考えられる。

各学校において、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行ったことにより、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行うなど、数学的活動を充実させたことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の「関数」「データの活用」の領域において、全国を上回ったと考えられる。

【白糠町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間を見通した系統的かつ発展的な教育課程の推進
- ◎ ICTを活用した指導力の向上に向けた校内研修等の充実
- ◎ 関係機関と連携を図った放課後学習サポートの実施と拡充(小学校低学年～中学年)